

お品書き	1, 近況・経過報告 / 2, 今後の予定 3, 話題提供 / 4, 総会報告
-------------	--

■ **1, 近況・経過報告** ■
夕張市石炭博物館
7年ぶりの模擬坑道再開！

2019年4月18日深夜に発生した原因不明の火災は、関係各位の多大なご尽力により、同年5月13日ようやく鎮火が確認されました。以後、有識者委員の助言を得ながら詳細な調査を進め、厚谷夕張市長の大きな決断と、国からの力強い支援を受けて、復旧工事が本格的に始まりました。そしてこのたび、4月19日（土）、北海道知事・鈴木直道様をはじめとする多くのご来賓をお迎えし、夕張市と炭鉱の記憶推進事業団との共催で、再開セレモニーを開催することができました。

消火活動から調査、計画策定、工事の実施に至るまで、多くの皆様のご尽力があってこそこの復旧です。幾多の困難を乗り越えた炭都・夕張の底力をあらためて実感するとともに、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

● **日本遺産認定と火災**

思い返せば、2019年4月、日本遺産認定を目指して審査に臨んだ当時、「炭鉄港」は“選外かもしれない”“当落線上にある”といった厳しい噂が飛び交っていました。しかも審査は、模擬坑道の



火災が続いている最中に予定通り実施され、吉岡前理事長が上京して文化庁でのヒアリングに臨むこととなりました。

その場では、火災の影響を心配する審査員の声もありましたが、「炭鉱とは、困難を何度も乗り越えてきた歴史そのものだ」という主旨の力強いプレゼンテーションを行いました。その結果、見事に審査を突破し、2019年（令和元年）5月20日、日本遺産として認定されることとなったのです。

● **その後の夕張市石炭博物館**

火災の影響により営業を休止しておりましたが、さまざまな準備を重ね、模擬坑道を除く残り約3分の2の施設を活用し、同年6月8日より営業を再開することができました。その際には、多くの皆さまから寄付や励まし、お見舞いの言葉を頂戴し、改めて心より感謝申し上げます。なお、ご支援くださった皆さまのご芳名は、博物館地下展示通路にて、夕張市実施のクラウドファンディング参加者パネルの隣に掲示しております。

5月の日本遺産認定、そして6月の営業再開に一安心したのも束の間、年末には新型コロナウイルスの報道が広まり、2020年に入ると国内にも本格的

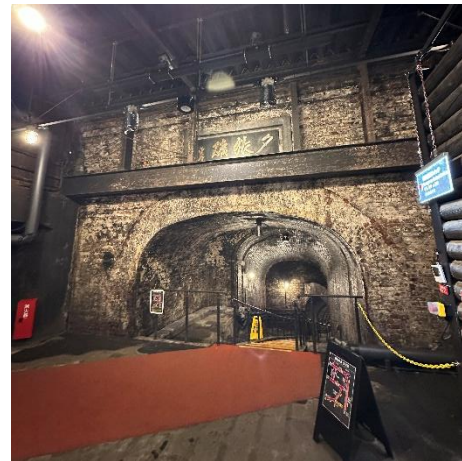
な影響が及びました。「ここから！」という思いが高まっていた矢先の不運ではあ

りましたが、長引く活動自粛の流れも、2023年5月の「5類」移行によりようやく落ち着きを見せ、日常が戻りました。

一方で、模擬坑道の復旧が進まぬ中、当館として「博物館の価値をどう高めるか」を模索し続けた結果、元炭鉱マンのスタッフや館長が中心となって実施した大型採炭機械ドラムカッターの実演と解説が生まれました。この取り組みは来館者アンケートでも高い評価を得ており、SNSなどでも話題となりました。模擬坑道が再開されるまでの間、この実演が当館の新たな主役となったのです。

● **今年度の状況**

7年ぶりの模擬坑道再開は、テレビ、新聞等で幾多もの報道がなされ、お陰様でゴールデンウィークには1,300人/日を超える日も記録するなど、過去最高の入館者に恵まれました。大変混雑する駐車場の警備にも、当NPO会員の協力もいただきながら、無事にクリアすることができました。改めて感謝申し上げます。



夕張市においても、地方を取り巻く公共交通利便性の低下や、大きな宿泊先が失われるなど様々なネガティブな社会情勢の変化もあり、好調な来館者をどこまで維持することができるかは未知数ですが、指定管理者としての強い覚悟を持って、特別企画展の新展開や、模擬坑道のさらなる魅力向上策、細かな情報発信、スタッフ一丸で“おもてなしマインド”を大切にしながら、夕張市石炭博物館を多くの人々の目的地として、また日本遺産「炭鉄港」の各地を巡るハブとしての機能を発揮すべく、全力を尽くしてまいります。どうぞ今後ともよろしくお願い申し上げます。

● **日本遺産再審査**

● **炭鉄港**

日本遺産は認定から5年経過した年度において、文化庁の「日本遺産審査・評価委員会」で総括評価と継続審査が行われます。本年、炭鉄港はその節目であり、5月22日に現地審査が行われました。膨大な書類審査と厳しい現地調査の結果が出るのは7月末？と言われ、炭鉄港が引き続き日本遺産としての価値を継続できることを祈るとともに、これまでの課題であった、各地の連携強化に向けた取組として、以下にご紹介する「炭鉄港 3-DAYS」などの新たな取組も進めていきます。

■ **2, 今後の予定** ■

● **今年は炭鉄港 3-DAYS を準備中！**

真の地域連携と新たな魅力づくりを目指し、**10月11日（土）～13日（月）の3連休**を、当該地域各地で、観る！聞く！体験する！食べる！炭鉄港三昧の3日間を実施すべく準備中です。これは毎年同時期に実施することで、ゆくゆくは本州や海外からも多くの人が訪れる炭鉄港を目指すとも

に、これまでなかなか地域間連携が叶わなかった要素において、それぞれ各地の「点」を「面」としての取り組みに昇華させる切り口となることを期待しています。実施主体は、炭鉄港推進協議会初となる会議体「ラウンドテーブル」を主軸として実現に向けて調整しています。どうぞこの3日間は今から万難を排して予定確保しておいていただければ幸いです。当NPOとしても、普段はなかなか体験できないことをやれる3日間にしたいと思っています。



● **炭鉱の灯り**

毎年恒例の「炭鉱の灯り」ですが、今年は7月26日（土）に夕張市石炭博物館周辺にて開催します。詳細はホームページやSNSをチェックしていただければ幸いです。

● **炭鉱（ヤマ）の日**

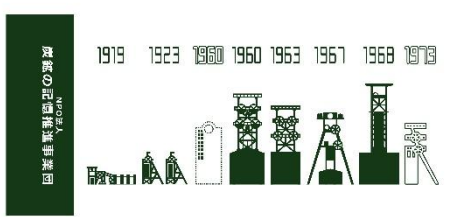
毎年8月11日は〈山の日〉ですが、当NPO的には炭鉱（ヤマ）の日です。よって、今年もズリ山登山を行います。目指すは旧北炭幌内炭鉱立坑櫓裏のズリ山です。道も何も無い場所ですが、運営会員の青木康博さんのお陰でちょっと特別な体験ができそうです。こちらも詳細はホームページやSNSをチェックいただければ幸いです。

● **ぶらぶら歩きシリーズ**

もちろん！今年もバリバリやります。スケジュールが決まりましたら随時発表させていただきます。

● **その他**

今年はNPO オリジナルタオルにデザインされた現存立坑櫓のうち、空知炭鉱立坑櫓が解体されてしまいました。よって、新たな立坑タオルも近々販売予定です。またオリジナルポーチも販売を開始しました。ぜひご活用ください！



● **九州研修！**

昨年計画していたものの諸事情で叶わなかったNPO 会員向け九州研修ですが、今年こそ実施します。日時は11月9日（日）～11日（火）で、現地集合型にて行う予定です。尚古集成館や軍艦島など盛り沢山の予定です。

■ **3, 話題提供** ■

● **続：無印良品に炭鉄港！**

昨年、岩見沢市に無印良品が出店する際、店舗装飾に炭鉄港のエッセンスが盛り込まれ、入口横には石炭ストーブ、レジ裏には鉄道や炭鉱由来の部材や画像が展示され、大きく炭鉄港マークが掲げられました。その流れで今年は室蘭市に新規出店する際に相談を受け、すぐに当NPO 理事であり、室蘭市観光協会事務局長の仲嶋憲一さんに連絡。結果、室蘭店の新店舗には炭鉄港の構成市として「鉄のまち」のエッセンスが色濃く出る店舗装飾になりそうです。ぜひ、本年秋の開店の際には見に行ってください幸いです。

■ 4， 総会報告 ■

《第 1 号議案》

2024 年事業報告（抜粋）

※活動計画に対する達成度：○＝達成 △＝途上 ×＝未了

※拠点の略称：MC＝マネジメントセンター、CM＝夕張市石炭博物館

■ 出版事業

× 実施できませんでした。

■ 動画配信事業

○ ぷらぷらまち歩きスペシャルの告知や炭鉄港関連フォーラムなど、12 本を YouTube で配信。チャンネル開設以来の視聴回数は 3.3 万回超、登録者は約 470 人に達し、現地に来られない方々からも好評を得て、動画を通じた新たなファン層の獲得に繋がりました。

■ 炭鉱遺産事業

○ 「ぷらぷらまち歩き」は定番 16 回・特別 7 回の計 23 回開催、延べ 715 名が参加し、昨年を上回る成果に。新規会員獲得にもつながりました。奔別立坑の春・夏公開には約 940 名が来場し、約 500 名がガイドツアーに参加。空知を代表する炭鉱遺産として定着し、三笠市と連携して整備・活用を継続しています。炭鉄港に関わる大学・自治体・団体との連携も活発化し、VR 視察、展示協議、フェスタ出店など地域内外との協働が進みました。

■ 学術支援事業

○ 太田清澄氏・島津忠裕氏が引き続き顧問として活動。中国からの視察対応や企業団体との意見交換、地域戦略会議への参加を通じ、シンクタンクの役割を果たしています。教育機関との連携も進み、小中高・大学に加え、台湾や中国からの訪問にも対応。出前授業・現地案内の実施が大幅に増加しています。

炭鉄港の日本遺産再認定支援として推進協議会と連携し、5 周年記念フォーラムでは平野理事長が基調講演を実施。講座やゼミ形式の学習機会も継続開催され理解促進と人材育成に貢献しました。

■ 市民団体連携事業

○ 芦別・由仁・栗山などでの出前講座に加え、「炭鉱の灯り」開催や、サイクリングイベント、地域シンポジウムへの参加など、多様な場面で情報発信と交流が行われました。無印良品岩見沢店装飾やイオンでの展示協力、ホテルへの模型貸出なども実施し、炭鉄港の魅力発信に寄与。国内外からの炭鉱・炭鉄港に関する問い合わせや取材にも積極的に対応しました。

■ 拠点活動事業

○ マネジメントセンターの入館者数は 4,278 名。炭鉄港カードやスタンプラリーの拠点として機能し、観光の起点として地域に定着。開設 15 周年記念として石蔵カフェやミニトークも開催。石蔵では「解体立坑」「鳥瞰図」などの展示や、「夕張鉄道」「人造石油」などをテーマにしたゼミ形式の講座を実施。元炭鉱マンを招いた語り部企画も行われ、記憶の継承にも寄与。その他、LINE スタンプの販売、ふるさと納税返礼品の登録、鳥瞰図グッズの展開など、認知と収益向上を図る取り組みも展開しました。

■ ヘリテージツーリズム事業

△ 炭鉄港推進協議会、岩見沢市・三笠市観光協会、旅行会社などから、ガイドツアーやまち歩き企画に関する相談を複数受けました。実施に向けた連携の土台づくりが進行中です。

■ 石炭博物館事業

2024 年は指定管理 2 期目 2 年目で、模擬坑道再開の再延期など厳しい

状況下ながら、通年開館を継続。有料入館者は 17,469 人で目標・前年比ともに上回り、特別展や SNS、全国メディアでの発信が誘客に貢献しました。まち歩きの回数も増加し、満足度と収入向上に寄与。展示整備や交代助勤体制を継続しつつ、勤務体制の見直しによるコスト削減にも取り組みました。

○ 博物館の質的充実に向けた展開 1 階では特別展「夕張鉄道創立 100 年」や炭鉄港パネル、ミニ絵画展示を実施し、2 階常設展には夕張支線廃止関連の新規資料を追加。夏休みの無料ガイドや七夕、クラフト体験なども行い、情報発信拠点として多様な取り組みを展開しました。各種催事にも協力し、夕張と博物館の PR に貢献しました。

■ 会務

○ 会員サービスの実施 会員交流の実施、イベント等での会員価格、先行予約の設定、6 月の会員限定羽幌炭鉱見学バスツアーの実施など会員サービスの向上に努めました。○ 各種会員拡大に向けた取り組み 会員サービスの実施により、一般会員は 60 名の入会がありました。○ 会員数 2024 年 12 月末 総数＝423 名 昨年より 44 名増加（2023 年末 379 名、2022 年末 343 名） 運営会員＝54 名 昨年より 4 名減少（2023 年末 58 名、2022 年末 53 名） 一般会員＝341 名 昨年より 48 名増加（2023 年末 293 名、2022 年末 266 名） 賛助会員＝28 社 昨年と同数（2023 年末 28 社、2022 年末 24 社）

《第 3 号議案》

2025 年活動計画（抜粋）

本年は「炭鉄港」日本遺産認定から 5

《第 2 号・4 号議案》		2024 年 12 月 31 日の財務状況	
		単位：円	
科 目		金 額	
I 資産の部			
1 流動資産			
現 金	286,233		
普通預金 ゆうちょ銀行	270,202		
郵便振替口座	2,174,389		
普通預金 北洋銀行	3,024,681		
普通預金 空知信用金庫	60,320		
普通預金 北海道労働金庫	9,349		
普通預金 北洋銀行〔石博〕	5,974,385		
現金・預金小計	11,799,559		
貯蔵品	272,262		
前払費用〔家賃〕	150,000		
仮払金	251,578		
流動資産合計		12,473,399	
2 固定資産			
建物付属設備	199,100		
工具器具備品	1,582,022		
減価償却累計額	△ 1,619,745		
有形固定資産小計	161,377		
敷 金	50,000		
出資金〔空知信用金庫〕	50,000		
投資その他の資産小計	100,000		
固定資産合計		261,377	
資産合計			12,734,776
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金〔電力料・社会保険他〕	1,514,766		
未払費用	554,555		
預り金	390,960		
未払い法人税	1,639,000		
未払い消費税	1,114,400		
流動負債合計		5,213,681	
2 固定負債		0	
固定負債合計		0	
負債合計			5,213,681
III 正味財産の部			
1 前期繰越正味財産		6,807,577	
2 当期正味財産増加額		713,518	
正味財産合計			7,521,095
負債および正味財産			12,734,776

周年の節目であり、次の展開に向けた重要な年です。地域の期待も高まり、当 NPO の社会的責任も増えています。これまでの活動を基盤に、「炭鉱遺産を活用した地域活性化」という使命のもと、会員と共に仲間づくりと活動の質の向上を進めていきます。

■ 出版・情報配信事業

・炭鉄港公式ガイドブックや博物館図録の出版を目指す。

・会報誌「情報」の年 1 回発行や、YouTube・SNS・Web サイトによる継続的な情報発信を行う。

■ 炭鉱遺産事業

・ぷらぷらまち歩き、奔別の利活用、石碑整備検討、団体連携の推進。

・ドイツ・ルール地域協会の空知訪問への対応も予定。

■ 学術支援事業

・鹿児島との歴史的交流、自治体のまちづくり計画支援、教育機関との連携、日本遺産再審査支援。

・まちづくり講座や各種フォーラム、バスツアー形式の講座も継続。

■ 市民団体等連携事業

・炭鉄港を軸にした地域団体・学校・企業等との連携や「炭鉄港 3-DAY」開催を含む取り組み。

・国内外の関係者対応も継続。

■ 拠点活動事業

・マネジメントセンターの質向上と認知度アップ、会員による運営支援の継続。

■ ヘリテージツーリズム事業

・必要に応じて観光連携や支援実施。

■ 石炭博物館事業

・ガイドブックや特別展図録の出版、模

■ 財務諸表 ■

所感：2024 年度は、当 NPO において財政的比率の高い夕張市石炭博物館の運営が好調だったため、前年度のマイナス決算から黒字に転換することができました。また本来の活動においても、参加者や利用される方々に必要とされる様、より一層の価値向上に取り組んでまいります。

活動報告書 2024 年度決算・25 年度予算

科 目		2024決算	2025 予算
経常収益			
	受 取 会 費	2,286,000	2,300,000
	寄 付 金	733,080	500,000
	事 業 収 益	38,751,369	41,200,000
	補 助 金	400,000	600,000
	そ の 他	2,598	
経 常 収 益 計		42,173,047	44,600,000
経常費用			
事 業 費	人 件 費	16,115,420	14,000,000
	各 事 業 費 計	22,308,048	20,100,000
小 計		38,423,468	34,100,000
管 理 費	人 件 費	1,380,000	4,440,000
	そ の 他 経 費	17,000	4,060,000
小 計		1,397,000	8,500,000
経常費用計		39,820,468	42,600,000
当 期 正 味 財 産 増 加 額		2,352,579	0
法 人 税 ・ 住 民 税 ・ 事 業 税		1,639,061	2,000,000
当 期 繰 越 正 味 財 産 額		713,518	0
前 期 繰 越 正 味 財 産 額		6,807,577	44,600,000
当期正味財産		7,521,095	44,600,000
単位：円			

擬坑道展示への対応。

・館内ガイドやイベント開催、展示内容の充実、販売強化、地域回遊性向上のための取り組みを実施。

■ 会務

・会員特典を含むサービスの提供。
・各種会員拡大に向けた取り組み

総会資料については、当 NPO 公式 WEB サイトからダウンロード可能です
https://soratan.or.jp/npo/4-a_sokaireport/

■ 理事の選任

ー 役職変更 ー

（新）副理事長 北口博美

（新）常勤理事 大橋二郎

ー 他理事、監事、顧問は変更なし ー